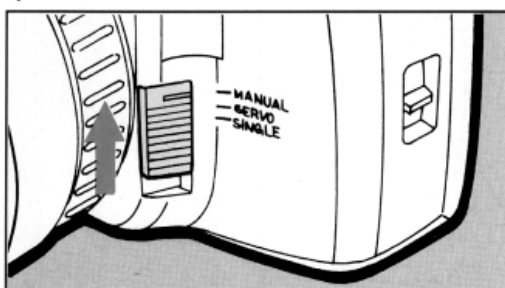


III 応用的な使い方

1



応用的な使い方

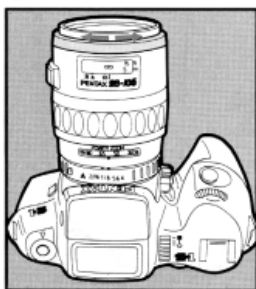
1) マニュアルフォーカスレンズを使う場合
従来のK_AやKマウントレンズで、開放F値がF5.6以上の明るいレンズ (F1.2~5.6) を使うと、ファインダー内の合焦表示  を利用した手動ピント合わせができます。

使い方

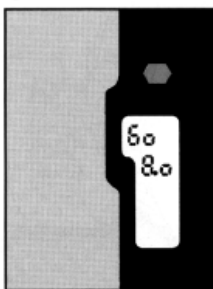
1. フォーカスモードレバーを **MANUAL** にセットします。

37

2



3



応用的な使い方

* ピントが合うと、ファインダー内の合焦表示  の点灯と同時に「ピピッ」と電子音が鳴りますが、 設定で電子音を消すこともできます。(95ページ)

スナップインフォーカス撮影について

K_AおよびKマウントレンズを使用して、フォーカスモードレバーを **SINGLE** にセットすると、別売りの「ケーブルスイッチF」を利用してピントが合ったときに自動的にシャッターが切れるスナップインフォーカス撮影ができます。

1. レンズはK_AおよびKマウントレンズを使用します。
2. フォーカスモードレバーを **SINGLE** にセットします。
3. 写したいものが通りそうな位置にピントを合わせます。
4. ケーブルスイッチFを使って、シャッターボタンを押し切った状態にします。
5. 写したいものがピントを合わせた位置に来ると、自動的に撮影されます。

2. ファインダーを覗きながらシャッターボタンを半押しした状態で、レンズの距離リングを左右に回してください。

3. ピントが合うとファインダー内の合焦表示  が点灯して知らせます。そのままシャッターボタンを押し切って撮影してください。

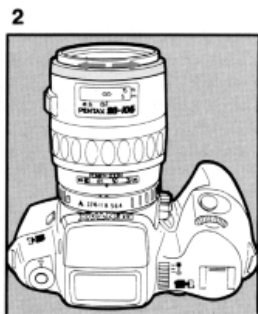
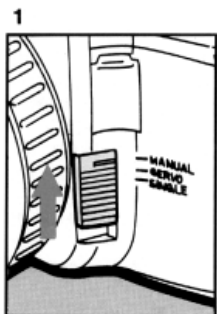
* K_{AF}およびK_{AF2}マウントレンズを使用しても、フォーカスモードレバーを **MANUAL** にセットすると同じ操作になります。

* 旧タイプのねじ込み取り付け式レンズを別売りの「マウントアダプターK」で取り付けても、ファインダー内の合焦表示  によるピント合わせはできません。

オートフォーカスが使えない場合

以下の理由で、オートフォーカスやファインダー内の合焦表示  が使えない場合は、ファインダーのマット面を利用して従来の一眼レフカメラと同様に手動でピント合わせをしてください。

- 「オートフォーカスの苦手な被写体」で合焦表示  が点滅するとき。
- 開放F値がF5.6より暗いレンズを使っているとき。
- ペローズ100mm F4、シフト28mm F3.5（シフト状態）、レフレックスタイプのレンズを使用したとき。
- 旧タイプのねじ込み取り付け式レンズを別売りの「マウントアダプターK」で取り付けて使用したとき。



使い方

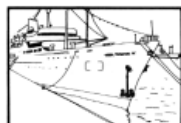
- フォーカスモードレバーを **MANUAL** にセットします。
- ファインダーを覗きながら、レンズの距離リングを左右に回してファインダー内の映像が最もはっきり見えるようにピントを合わせ、撮影してください。

応用的な使い方

(2) オートフォーカスの苦手な被写体

オートフォーカス機構はきわめて高精度のものですが、万能ではありません。被写体の明るさ・コントラスト・形状・大きさなどによって、ピントが合わない場合があります。ファインダー内の合焦表示  を利用してピント合わせを行なう手動ピント合わせも同様です。そんなときは、被写体とほぼ等しい距離にあるものにフォーカスロックをしたり、フォーカスモードレバーを **MANUAL** にセットして、従来の一眼レフカメラと同様にファインダーのマット面を利用して手動ピント合わせを行なってください。

- A F フレーム  に白い壁などの極端にコントラスト（明暗差）の低い被写体がある場合。
- A F フレーム  に光を反射しにくい被写体がある場合。
- 非常に速い速度で移動している被写体。
- A F フレーム  に横線のみや細かな模様のある被写体がある場合。
- 遠近のものが A F フレーム  の中で同時に存在する場合。
- 反射の強い光、強い逆光（周辺が特に明るい被写体）。



アクセサリーの注意

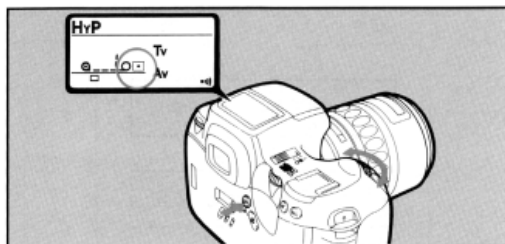
以下の条件では、オートフォーカスやファインダー内の合焦表示  を利用した手動ピント合わせができません。ファインダー内のマット面で手動ピント合わせをしてください。

- 特殊なフィルターや「マジックイメージアタッチメント」・「ステレオアダプター」などを使った場合。
- オートフォーカス機構の一部にハーフミラーを使用していますので、一般の偏光フィルターを使うとオートフォーカスの精度が低下します。オートフォーカスで使用するときは円偏光フィルターをご利用ください。
- 「接写リング」や「オートペローズ」を使った拡大接写撮影の場合。

SMCペンタックス F ソフト85mm F2.8 使用時の注意

約1.5mより近距離の撮影をするときは、レンズの絞りをF2.8～4.5でご使用ください。これより小絞り（F5.6～32）にすると、カメラのオートフォーカス（F1も同様）が誤合焦することがあります。F5.6以上の絞riを使う場合には、一旦レンズの絞りをF4.5に合わせてピント合わせを行ない、フォーカスロックをしたまま希望の絞りに回して撮影してください。

(3) 測光方式の切り替えについて



Z-1は、撮影者の好みで分割測光とスポット測光を切り替えることができます。

被写体の限られた部分だけに露出を合わせたいときなどにスポット測光をご利用ください。

電源スイッチを **I** にして、測光切り替えボタン **[]** を押しながらTvダイレクトダイヤルを回すと分割測光とスポット測光を交互に切り替えることができます。

* 電源スイッチが **[]** では、測光モードは分割測光になり測光方式の切り替えはできません。

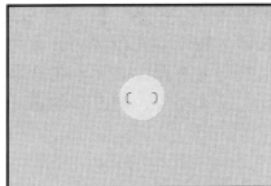
* 測光方式をスポット測光にすると、表示パネルに **[]** が表示されます。シャッターボタンを半押しするとファインダー内にも **[]** が表示されます。

* **[]** 設定で、測光モードの切り替えを分割測光と中央重点測光とにすることができます。(86ページ参照)

* レンズ情報接点のないレンズ(Mレンズ以前)を使用したときは、分割測光にならず、中央重点測光になります。

スポット測光について

図のように、ファインダー中央部の限られた範囲だけに露出を測りますので、中央に被写体の露出を合わせたい部分を入れて撮影してください。



メモリーロックについて

メモリーロックは、撮影前の露出をカメラに記憶させるもので、スポット測光と組み合わせて使用すると便利です。

被写体が非常に小さく、適正露出を得るのが難しい状態のときなどにお使いください。

1. 露出を合わせたい物がスポット測光の範囲いっぱいに入るようにして、メモリーロックボタン **[ML]** を押します。

* メモリーロックボタン **[ML]** を押すと5秒間タイマーが働き、露出が記憶されます。

* メモリーロック中に、シャッターボタンを半押しし続けると、メモリーロックボタン **[ML]** から指を離してもメモリーロックはそのまま継続されます。

2. 好みの構図に戻して、撮影します。

* メモリーロック中は、ファインダー内に **[*]** が表示されます。

* メモリーロック中にメモリーロックボタン **[ML]** を押すと途中解除できます。

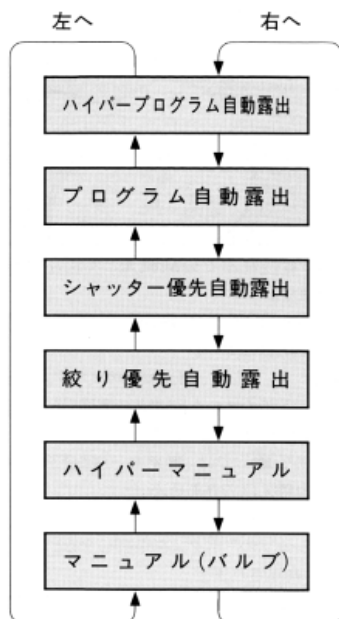
応用的な使い方

(4) 各露出モードを選びます

電源スイッチを **I** (フルスペックポジション) にすると、絞りがA位置のままでZ-1の持つ全ての露出モードを選ぶことができます。従来のように露出モードによって、絞りの位置を切り替える必要がありません。

露出モードの変え方

Z-1に右図のように6つの露出モードがあり、モードダイヤルを **MODE** に合わせ、モードセットボタンを押しながらTvダイレクトダイヤルを回すと矢印の順で露出モードを変えられます。各露出モードについては、それぞれのページの説明をご覧ください。

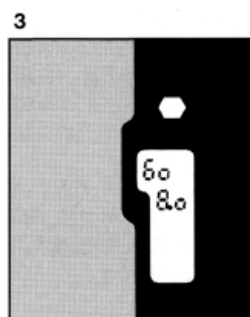
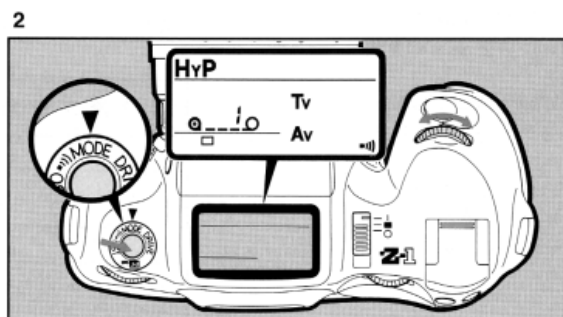
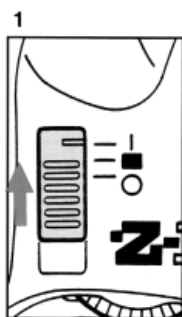
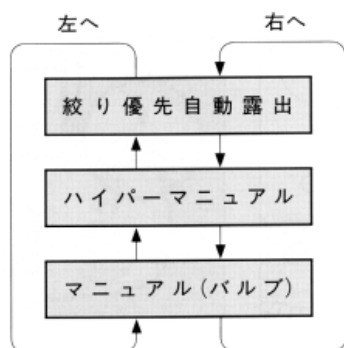


応用的な使い方

以下の場合には、絞りをA位置から外してご使用ください。なお、Aレンズより前のレンズ(Aポジションのないレンズ)を使用する場合も同様の扱いになります。

- ・プレビューボタンにより被写界深度を確認する場合。
- ・接写リングなど、絞りの連動がきかないアクセサリーを使用した場合。
- ・旧タイプのストロボで、絞りがA位置で使えないもの。

絞りがA位置以外では、右図のように3つの露出モードが選べ、矢印の順で変化します。モードの変え方は、絞りがA位置の場合と同様です。



1) ハイパープログラム自動露出の使い方

ハイパープログラム自動露出は、プログラム自動露出(46ページ参照)でありながら、ワンタッチでシャッター速度優先自動露出や、絞り優先自動露出に切り替えられるモードです。

絞りをA位置にします。

1. 電源スイッチを にします。
2. モードダイヤルを **MODE** にして、モードセットボタンを押しながら **Tv** ダイレクトダイヤルを回して、表示パネルに **HvP** の表示を出します。
3. シャッターボタンを半押しすると、ファインダー内と表示パネルにシャッター速度と絞りが表示されます。

* **PF** 設定で、プログラムラインをノーマルプログラムから高速優先、深度優先およびMTF優先プログラムに切り替えることができます。(86ページ参照)

シャッター速度を変えたい場合

Tvダイレクトダイヤルを回すと、即座にシャッター優先自動露出に切り替わります。好みのシャッター速度をTvダイレクトダイヤルで選んでください。(シャッター優先自動露出については48ページをご覧ください)

* シャッター速度は、絞り値が連動する範囲内でしか設定できません。(PF設定でシャッター速度のシフトを禁止(87ページ)した場合を除く。)

* 明るさが変わり、絞り値が連動範囲外になったときは、自動的にシャッター速度がシフトし、表示パネルの $\odot$ とファインダー内のシャッター速度表示の下横棒が点滅します。

PF設定で、シャッター速度のシフトを禁止することができます。(87ページ参照)

* IFボタンを押すと、ハイパープログラム自動露出に戻ります。

※露出警告

被写体が明るすぎたり暗すぎるときは、図のようにファインダー内や表示パネルの表示が点滅して警告します。明るすぎるときは、NDフィルターなどをご利用ください。暗すぎるときは、ストロボなどをご利用ください。

絞りを換えたい場合

Avダイレクトダイヤルを回すと、即座に絞り優先自動露出に切り替わります。好みの絞り値をAvダイレクトダイヤルで選んでください。(絞り優先自動露出については50ページをご覧ください)

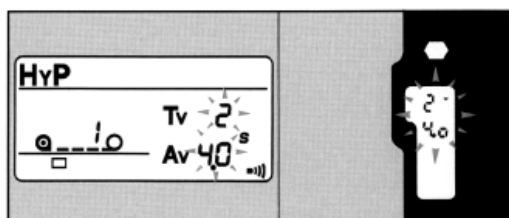
* 絞り値は、シャッター速度が連動する範囲内でしか設定できません。(PF設定で絞り値のシフトを禁止(87ページ)した場合を除く。)

* IFボタンを押すと、ハイパープログラムモードに戻ります。

* 明るさが変わり、設定した絞り値の範囲外になったときは、自動的に絞り値がシフトし、表示パネルの $\odot$ とファインダー内の絞り値表示の下横棒が点滅します。

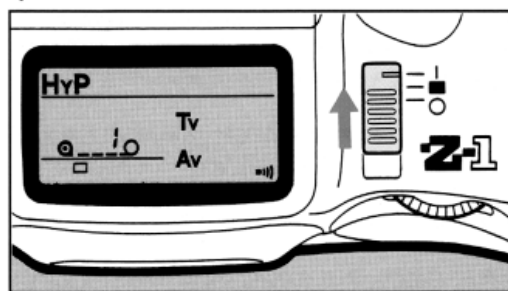
PF設定で、絞り値のシフトを禁止することができます。(87ページ参照)

応用的な使い方



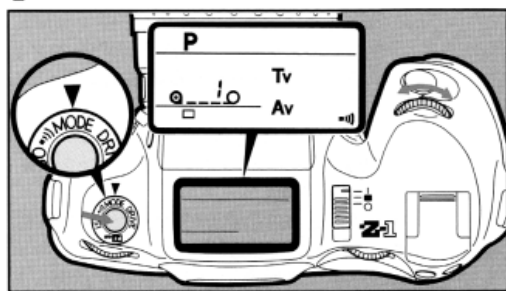
45

1



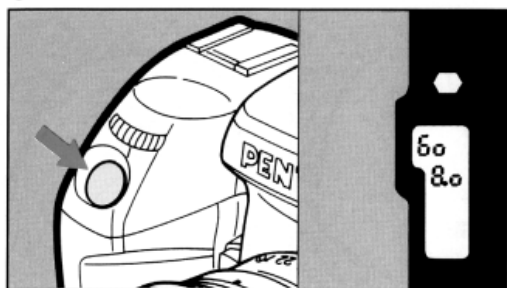
応用的な使い方

2



絞りをA位置にします。

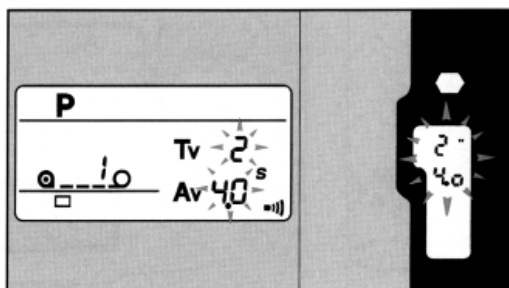
1. 電源スイッチを $\square$ I にします。
2. モードダイヤルをMODEにして、モードセットボタンを押しながらTvダイレクトダイヤルを回して、表示パネルにPの表示を出します。



3. シャッターボタンを半押しすると、ファインダー内と表示パネルにシャッター速度と、絞りが表示されます。

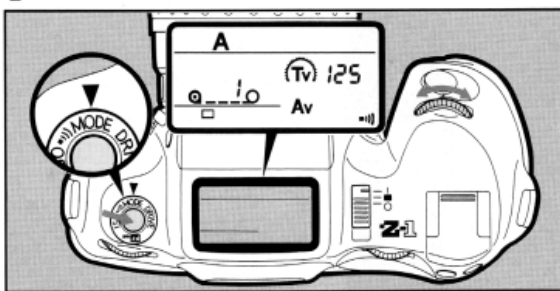
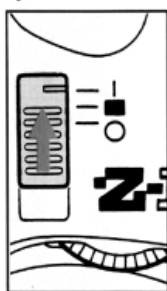
* 電源スイッチが で、絞りをA位置にすると、このモードになります。

* 設定で、プログラムラインをノーマルプログラムから高速優先、深度優先およびMTF優先プログラムに切り替えることができます。(86ページ参照)



※露出警告

被写体が明るすぎたり暗すぎるときは、図のようにファインダー内や表示パネルの表示が点滅して警告します。明るすぎるときは、NDフィルターなどをご利用ください。暗すぎるときは、ストロボなどをご利用ください。



3) シャッター優先自動露出の使い方

希望のシャッター速度に合わせると、被写体の明るさに応じて絞りが自動的に変わり、適正露出が得られます。速い速度で動きを止めたり、遅い速度で動感を出すのに適しています。

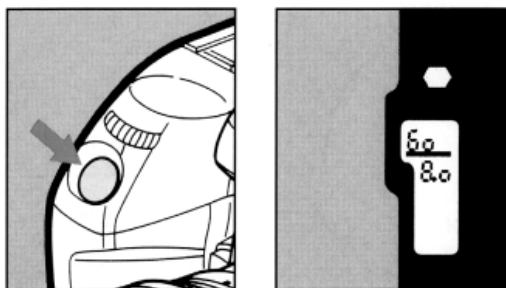
絞りをA位置にします。

1. 電源スイッチを にします。

2. モードダイヤルを **MODE** にして、モードセットボタンを押しながらTvダイレクトダイヤルを回して、表示パネルに **A** と **Tv** の表示を出します。

3. Tvダイレクトダイヤルでシャッター速度を変えます。

* 右に回すとシャッター速度が速くなり、左に回すと遅くなります。



4. シャッターボタンを半押しすると、ファインダー内と表示パネルにシャッター速度と、絞りが表示されます。

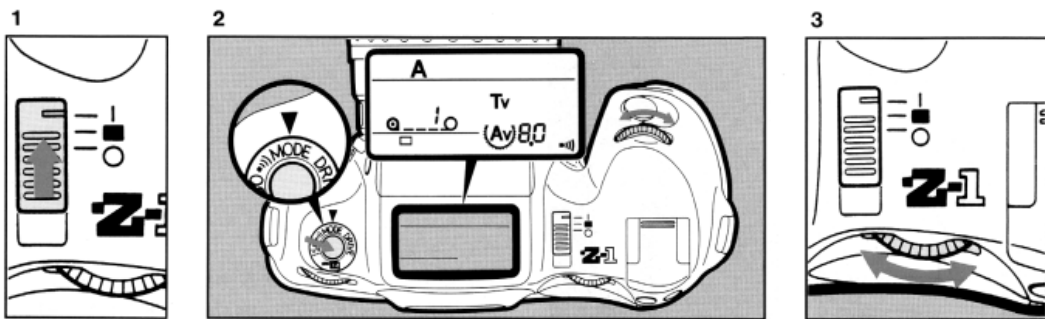
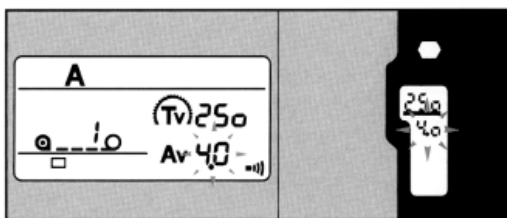
* ファインダー内のシャッター速度表示の下、の横棒は、シャッター速度が変更可能であることを表わしています。

* **PF** 設定で、シャッター速度の設定を1EVステップから0.5EVステップに変えられます。(87ページ参照)

※露出警告

被写体が明るすぎたり暗すぎるときは、図のようにファインダー内や表示パネルの絞り値表示が点滅して警告します。明るすぎるときはシャッター速度を速く、暗すぎるときはシャッター速度を遅くして点滅が止まれば撮影できます。

なお、シャッター速度表示と絞り値表示の両方が点滅した場合は測光範囲外です。NDフィルター(明るい場合)やストロボ(暗い場合)などをご利用ください。

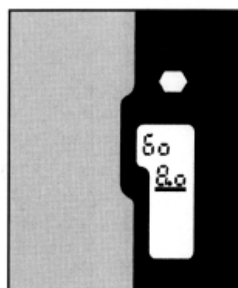
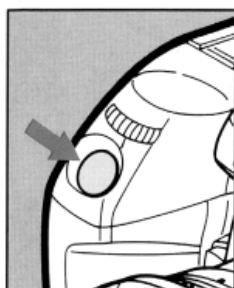


4) 絞り優先自動露出の使い方

希望の絞りを合わせると、被写体の明るさに応じてシャッター速度が自動的に変わって適正露出が得られます。ビントの合う範囲を広くしたい風景写真や、背景をぼかしたい人物の撮影などに適しています。

絞りA位置の場合

1. 電源スイッチを **I** にします。
 2. モードダイヤルを **MODE** にして、モードセットボタンを押しながらTvダイレクトダイヤルを回して、表示パネルに **A** と **Av** の表示を出します。
 3. Avダイレクトダイヤルで絞りを変えます。
- * 右に回すと小絞り側に(数字の大きい方)、左に回すと開放絞り側(数字の小さい方)になります。



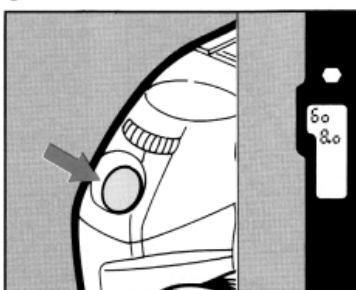
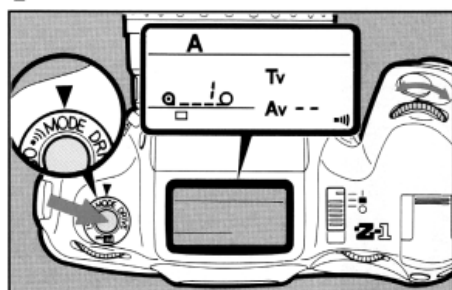
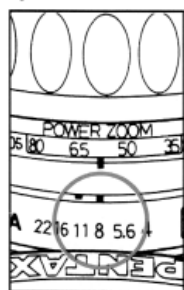
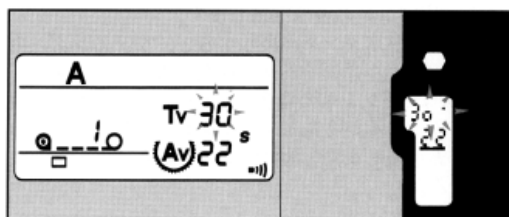
4. シャッターボタンを半押しすると、ファインダー内と表示パネルにシャッター速度と、絞りが表示されます。

* ファインダー内の絞り表示の下横棒は、絞り値が変更可能であることを表わしています。

※露出警告

被写体が明るすぎたり暗すぎるときは、図のようにファインダー内や表示パネルのシャッター速度表示が点滅して警告します。明るすぎるときは絞りを小絞り側(数字の大きい方)に、暗すぎるときは絞りを開放側(数字の小さい方)にして点滅が止まれば撮影できます。

なお、シャッター速度表示と絞り値表示の両方が点滅した場合は測光範囲外です。NDフィルター(明るい場合)やストロボ(暗い場合)などをご利用ください。



絞りをA位置以外にした場合

絞りがA位置以外でも絞り優先自動露出が使えます。

1. 絞りをA位置以外の好みの位置にします。

2. モードダイヤルをMODEにして、モードセットボタンを押しながらTvダイレクトダイヤルを回して、表示パネルにAの表示を出します。

3. シャッターボタンを半押しすると、ファインダー内と表示パネルにシャッター速度が表示されます。

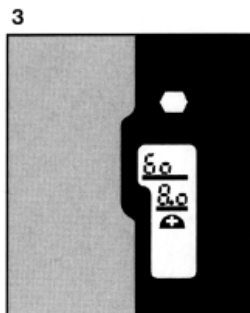
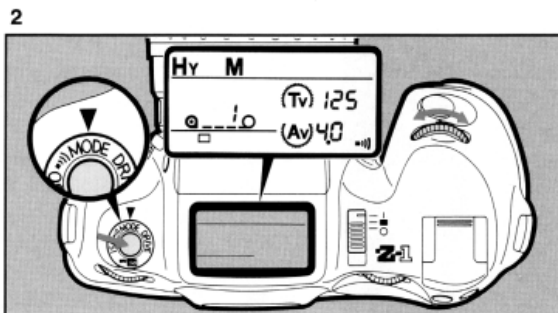
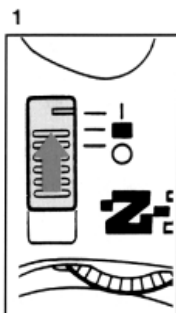
* FAおよびFレンズの場合、シャッターボタンを半押しすると表示パネルとファインダー内に設定絞りの目安表示をします。他のレンズの場合は、表示されません。

* 電源スイッチが $\blacksquare$ で、絞りをA位置以外にした場合もこのモードになります。

* 絞りがA位置以外の絞り優先自動露出のとき、プレビューボタンを押すとレンズはセットした絞り値まで絞られ、ファインダー内で被写界深度が確認できます。なお、プレビューボタンを押したまま露出を合わせると、正しい露出が得られません。

※露出警告

露出警告は、絞りがA位置のときと同じですから51ページを参照してください。



5) ハイパーマニュアル露出の使い方

露出計の指示に従って、シャッター速度や絞りを調節すれば、適正露出が得られますが、撮影者の作画意図に合わせた露出で撮影することもできます。

絞りをA位置にした場合

1. 電源スイッチを「I」にします。

2. モードダイヤルを「MODE」にして、モードセットボタンを押しながらTvダイレクトダイヤルを回して、表示パネルに「HvM」の表示を出します。

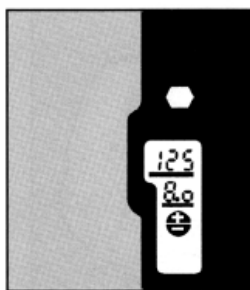
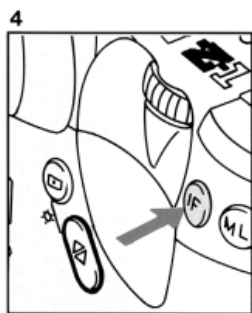
* 表示パネルにシャッター速度と絞り値が表示されます。

3. シャッターボタンを半押しすると、ファインダー内にシャッター速度、絞り値と $\frac{1}{25}$ あるいは $\frac{1}{40}$ が表示されます。

* ファインダー内のシャッター速度と絞り表示の下横棒は、シャッター速度と絞り値が変更可能であることを表わしています。

応用的な使い方

53



4. 「IF」ボタンを押すと、シャッター速度と絞り値が自動的に切り替わり、即座に適正露出が得られ、ファインダー内に $\frac{1}{25}$ が表示されます。その後、Avダイレクトダイヤルで絞りを、Tvダイレクトダイヤルでシャッター速度を変えれば、好みの露出値で撮影することができます。

* 「IF」ボタンを押すと、「PF」設定で選択した、プログラムラインに従って絞りシャッター速度をシフトします。(86ページ)

* $\frac{1}{25}$ の点灯は+1EV以内の露出オーバー、 $\frac{1}{40}$ の点灯は-1EV以内の露出アンダーです。±1EV以上の露出オーバー、アンダーのときは $\frac{1}{25}$ 、 $\frac{1}{40}$ 表示が点滅します。

* Avダイレクトダイヤルは、右に回すと小絞り側に(数字の大きい方)、左に回すと開放絞り側(数字の小さい方)になります。Tvダイレクトダイヤルは、右に回すとシャッター速度が速くなり、左に回すと遅くなります。

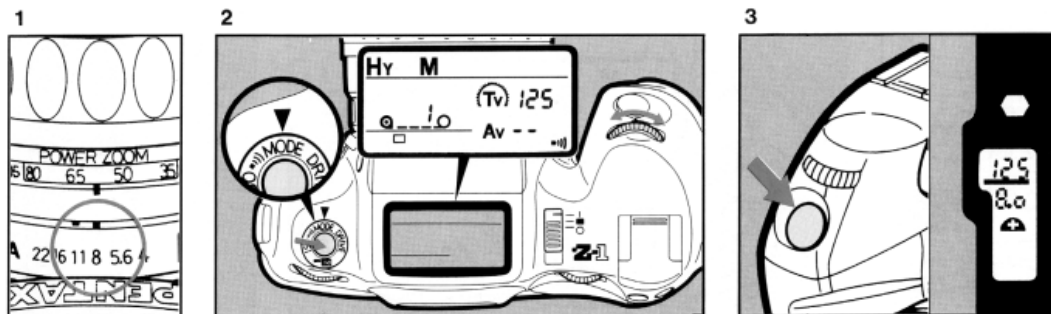
* 「PF」設定で、「IF」ボタンによる適正露出の求め方を、シャッター速度だけ、あるいは絞り値だけが変化するようにすることができます。(88ページ)

メモリーロックとの組み合わせ

絞りがA位置のハイパーマニュアルのとき、メモリーロックボタン「ML」を押して、露出値を記憶させることができます。(41ページメモリーロック参照)この状態で、Tvダイレクトダイヤルを回してシャッター速度を変えるとそれに応じて絞り値が、逆にAvダイレクトダイヤルを回すとそれに応じてシャッター速度が変化し、同じ露出値を保ちます。

応用的な使い方

54



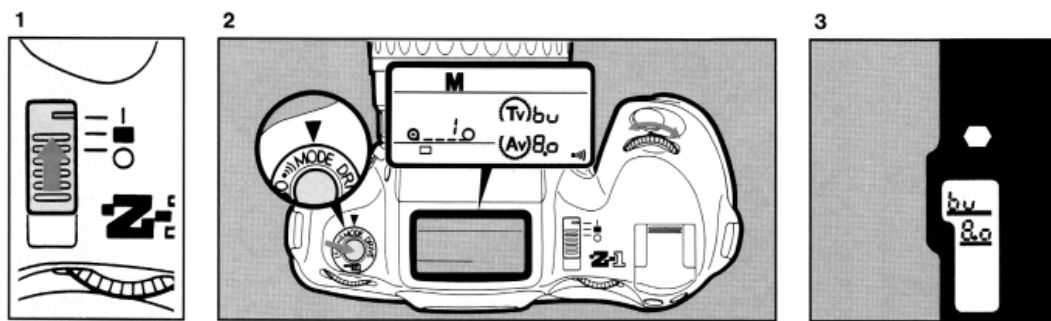
絞りをA位置以外にした場合

1. 絞りをA位置以外の好みの位置にします。
2. モードダイヤルを**MODE**にして、モードセットボタンを押しながらTvダイレクトダイヤルを回して、表示パネルに**HyM**の表示を出します。
*表示パネルにシャッター速度が表示されます。
3. シャッターボタンを半押しすると、ファインダー内にシャッター速度が表示されます。
絞りリングで絞りを、Tvダイレクトダイヤルでシャッター速度を変えます。
*露出の合わせ方は、絞りがA位置の場合と同じです。

- *FAおよびFレンズの場合、シャッターボタンを半押しすると、表示パネルとファインダー内に設定絞りの目安表示をします。他のレンズの場合は、表示されません。
- ***I/F**ボタンを押すと、シャッター速度が切り替わり、即座に適正露出が得られます。
- *絞りがA位置以外のハイパーマニュアル露出のとき、プレビューボタンを押すとレンズはセットした絞り値まで絞られ、ファインダー内で被写界深度が確認できます。
プレビューボタンを押したまま露出を合わせると、正しい露出が得られません。

応用的な使い方

55



6) マニュアル露出(バルブ)の使い方

花火、夜景などの撮影で長時間シャッターを開いておく必要のあるときにご利用ください。シャッターボタンを押している間、シャッターが開き続けます。

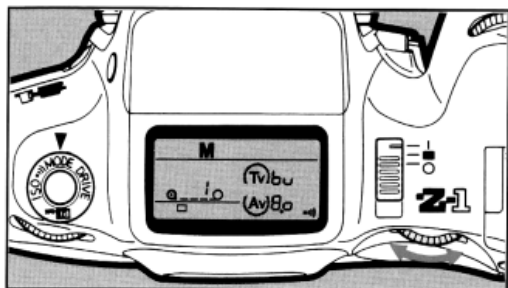
絞りA位置の場合

1. 電源スイッチを**I**にします。
2. モードダイヤルを**MODE**にして、モードセットボタンを押しながらTvダイレクトダイヤルを回して、表示パネルに**M**と**bu**の表示を出します。
*表示パネルに絞り値が表示されます。

3. シャッターボタンを半押しすると、ファインダー内に**bu**と絞り値が表示されます。
*ファインダー内の**bu**の下横棒は、シャッターボタンを押している時間によって露出時間が自由に選べることを表わし、絞り表示の下横棒は、絞り値が変更可能であることを表わしています。

応用的な使い方

56



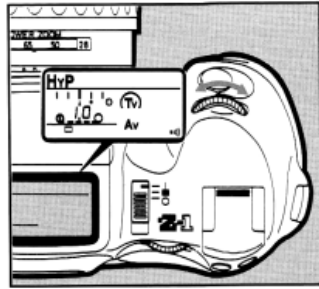
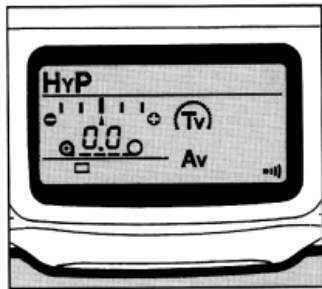
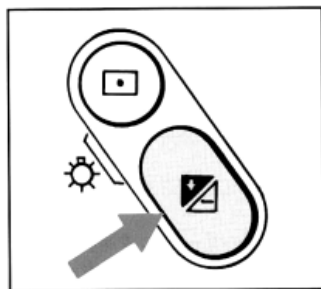
4. Avダイレクトダイヤルで絞りを選びます。

* Avダイレクトダイヤルは、右に回すと小絞り側(数字の大きい方)、左に回すと開放絞り側(数字の小さい方)になります。

絞りをA位置以外にした場合

1. 絞りをA位置以外の好みの位置にします。
2. モードダイヤルを**MODE**にして、モードセットボタンを押しながらTvダイレクトダイヤルを回して、表示パネルに**M**と**b u**の表示を出します。
3. シャッターボタンを半押しすると、ファインダー内に**b u**が表示されます。
 - * FAおよびFレンズの場合、シャッターボタンを半押しすると表示パネルとファインダー内に設定絞りの目安表示をします。他のレンズの場合は、**---**表示になります。
 - * バルブで撮影するときは、しっかりした三脚を使用し、別売りの「ケーブルスイッチF」をレリーズソケットに差し込んでご利用ください。
 - * 新品のリチウム電池(常温)で、約6時間の長時間露出ができます。
 - * 絞りがA位置以外のマニュアル露出(バルブ)のとき、プレビューボタンを押すとレンズはセットした絞り値まで絞られ、ファインダー内で被写界深度が確認できます。
 - * シャッターボタンを押している間、表示パネルの右上に露出時間が表示されます。

(5) 露出補正について



意図的に露出オーバー(明るい写真)や露出アンダー(暗い写真)にしたいときや、分割測光でも適正露出にならないような条件のときに露出を補正するために使います。

露出補正ボタン  を押すと表示パネルに補正値と露出インジケータが表示されます。Tvダイレクトダイヤルを回して希望の補正値を選んでください。

* 補正値は、-4 ~ +4 EVの範囲で0.3 EVごとに行えます。

* 露出インジケータの表示は、-2 ~ +2 EV (0.3 EVごと) までです。この範囲を越えた値を設定した場合は、インジケータの 、 が点滅して知らせます。

* 露出補正中は、表示パネルの露出インジケータと、

ファインダー内の  が表示されます。

* 電源スイッチを切っても露出補正は解除されません。

* 電源スイッチが  の場合は、露出補正は働きません。

*  設定で、露出補正のステップを0.3 EVごとから0.5 EVごとに変更できます。(87ページ参照)

この場合、表示パネルの補正表示が±3 EVを越えたときに、インジケータの 、 が点滅して知らせます。

* 露出補正ボタン  と測光モード切り替えボタン  を同時に押すと、表示パネルを約5秒間照明することができます。